

「御普請願書と絵図・地図を読む」解説

1 資料群・郡村名・所蔵家について

(1) 野中家文書の概要

- ・総点数12,256点（名主文書、寄場組合¹文書ほか）
- ・江戸時代初期から昭和時代までの幅広い年代にわたって文書が現存
- ・文書の内容としては、以下のような文書群から構成される

①相給村落²である中奈良村のうち旗本曲渕氏知行分の名主文書群、中奈良村戸長役場文書群

→御用留などの支配関係文書、年貢関係文書、利根川通・荒川通の水利普請関係文書、熊谷宿助郷・渡船など交通関係文書

②熊谷宿北部寄場組合37か村大惣代の文書群

→関東取締出役からの触書や廻状、治安・村政関係文書

③地域民衆に貸出された野中家の典籍・記録群

→文学・歴史・儒学関係の書籍、幕末政治情報の書留類など

(2) 幡羅郡中奈良村の地理的・歴史的概要

- ・地理…幡羅郡忍領に所属し、荒川の沖積扇状地³北東端に位置する
東は下奈良村、西は上奈良村に隣接する
村の規模は東西3町余（約330m）・南北10町余（約1,100m）
中奈良村から中山道熊谷宿まで1里19丁（約6km）
〃 から中山道深谷宿まで2里13丁（約9.5km）

- ・歴史…慶長12年（1607）：伊奈備前守による検地が行われる
寛永期（1624～1644）：旗本曲渕氏や旗本米津氏など計9家の旗本が支配する相給村落となる
寛文 3年（1663）：村の一部が忍藩領となる
明和 7年（1770）：村の一部が川越藩領となる
明治 9年（1876）：埼玉県の管轄となる
明治12年（1879）：幡羅郡に所属する
明治22年（1889）：上奈良村・下奈良村・奈良新田村・四方寺村と合併し、奈良村の大字となる

¹ 寄場組合…幕末の社会情勢に対応するため文政10年（1827）に関東に設置された町村の連合組合、領主の区別なく十～数十か村単位で構成された。

² 相給村落…1つの村に複数の旗本や大名の家臣が支配している村

³ 沖積扇状地…山間を流れる川が平地へ出る際、急速に流速が衰えることによって土や砂などが堆積して生じる扇形の地形

明治29年（1896）：大里郡の所属となる
昭和29年（1954）：熊谷市に編入合併される

- ・村高…1,956石余（元禄期：1688～1704）→1,975石余（明和期：1764～1772）
→2,010石余（天保期：1831～1845）
- ・軒数・人口…234軒998人（明和元年〈1764〉）
→118軒（文政5年〈1822〉）→172軒850人（明治9年〈1876〉）

(3) 野中家の概要

- ・野中家は中世の土豪で清和源氏足利氏の流れを汲む野中八郎貞国を遠祖に持つとし、貞国の子孫で関東管領上杉憲政の家臣であった野中備前守帯刀兄弟のうち、その弟が中奈良村に帰農し、彦兵衛と改名したところから始まると伝えられる
- ・近世において、相給村落の中奈良村のうち旗本曲淵氏知行所の名主を代々務める。他にも中奈良村惣代や荒川堰組合惣代、天保14年（1843）には熊谷宿北部37か村の改革組合大惣代に就任し、地域の顔役として活躍した
- ・近代に入ると、近世に引き続き、奈良村村会議員や埼玉県議会議員となるなど、近世に引き続き、地域の顔役としての役割を果たした

(4) 奈良堰用水路の概要

- ・開削年…慶長2年説
／慶長7年説

・慶長2年の説

慶長2年（1597）：

三ヶ尻堰用水、別府堰用水ととなえる用水路を設ける

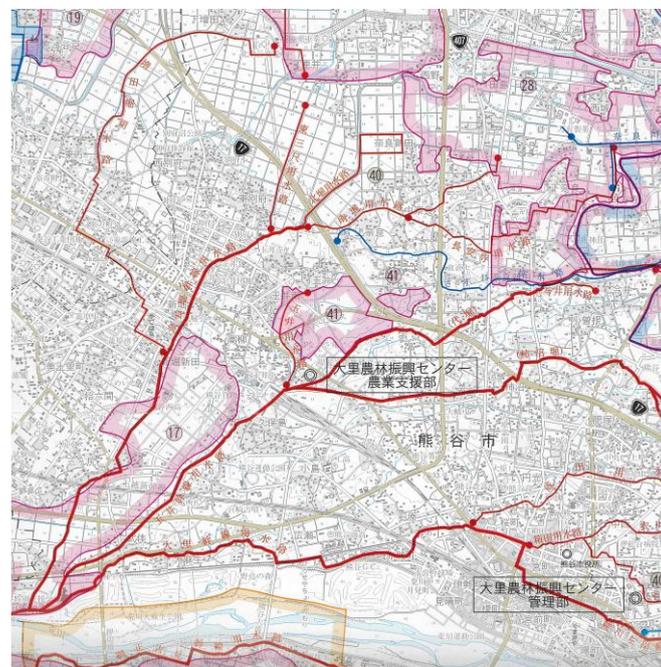
寛文12年（1672）：

慶長2年にできた用水路を上奈良村まで延長した水路を奈良堰用水路とする

・慶長7年の説

慶長7年（1602）：

伊奈忠次が荒川左岸



現在の奈良堰用水路などの地図
〈出典〉「埼玉県大里農林振興センター管内図」
（平成24年〈2012年〉、県5817）

の大里郡河原明戸村（現熊谷市）に石堰を設け、奈良・玉井・大麻生に堰用水路を完備、荒川右岸の御正・万吉にも堰用水路を整備

元和元年（1615）：大里郡広瀬村（現熊谷市）に成田堰を設ける

→扇状地・扇端部下流の耕地安定と新田開発を促進し、「荒川六堰」と総称される

- ・使用用途…飲料用水、農業用水
- ・用水管理…組合村々10か村（安政4年〈1857〉時点）
→三ヶ尻村・新堀新田村・新堀村・西別府村・東別府村・増田村・上奈良村・中奈良村・下奈良村・奈良新田村

2 史料について

(1) 史料1 文政12年（1829）9月 乍恐以書付を御訴奉申上候

（野中家文書4083）

- ・本資料は中奈良村名主の野中彦兵衛から御地頭所（旗本曲渕家の江戸屋敷）の役人へ宛てた願書である
- ・内容としては2点の事柄が記されている

内容①：文政12年8月2日以降の天候および田畑の状況

（本文1行目～16行目）

8月2日～3日／9日～10日：「風雨列敷」・「大雨烈風」

→早稲の出穂に支障が出る

8月21日：「風雨強」

→利根川が氾濫し、耕地などが2～3日間水を被る

→晩稲の出穂に支障、水腐れ、耕作地流出などの被害が及ぶ

⇔畑地でも悪天候の影響を受け大豆などの生育に影響

⇒地頭所へ田畑の実り方の見分願い出る

内容②：奈良堰用水路の被害状況と御普請（領主普請）願い

（本文17行目～29行目）

史料中での奈良堰用水路の被害状況

- ・荒川の引き入れ口から塚樋までの井筋などへの砂利の流入
- ・井堰や洗堰などのメ切場所の決壊
- ・杵や蛇籠の流出

→甚大な被害を受け、呑水（飲料用水）の確保に支障が出ていることがうかがえる

→組合の自力でもって用水路の管理をし、呑水の取水を行っていることもうかがえる

⇒組合は、自普請では翌寅年（文政13年）の呑水の取水が難しいため、

領主による御普請（領主普請）を出願する

- ・自普請…村自らの費用で施工する普請（工事）
- ・御普請…領主が費用を出して施工する普請（工事）

⇔このとき文書作成者である名主野中彦兵衛は江戸に滞在していることがうかがえるとともに、天候や奈良堰用水路の状況について村から知らせがあり、その顛末を地頭所へ訴えている

(2) 史料2 [奈良堰用水路麓絵図] (野中家文書8214)

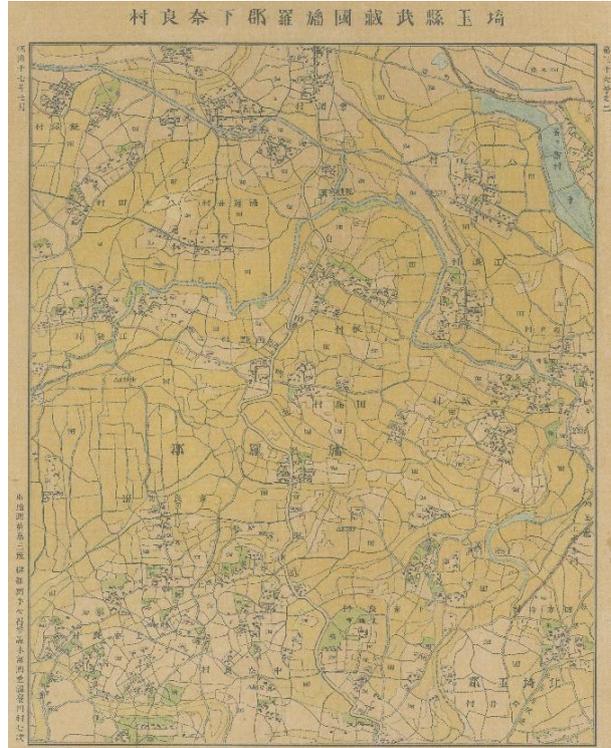
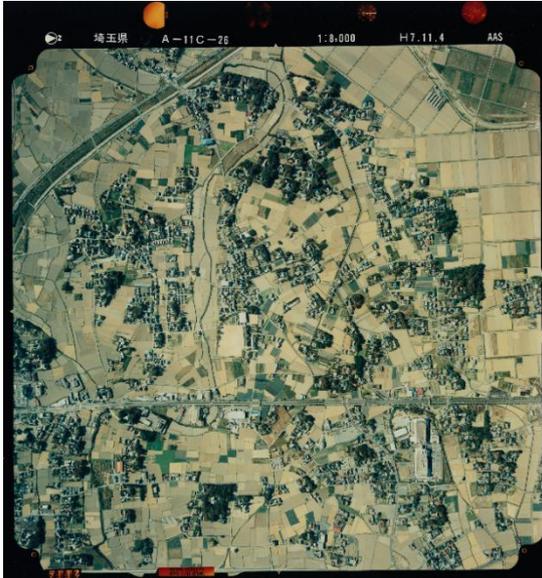
- ・本資料は荒川から分水する奈良堰用水路の麓絵図
- 近世の絵図の特徴として、近代以降の地図と異なり上部が北であるとは限らない、また、現代のような地図縮尺や地形の形など不明瞭な部分も見られる
- ・作成年月・作成者・作成目的は不明
- 普請を出願する際の添付の絵図？
- で囲まれている村々…奈良堰用水の組合村々10か村
- ⇒用水路と各組合村との位置関係が大まかに確認できる

3 用語の解説

知行所（ちぎょうしょ）	支配する土地（この文書では旗本の封地）
満水（まんすい）	河川が増水しあふれること
早稲（わせ）	早く成熟する稲
晩稲（おくて）	遅く成熟する稲
立毛（たちげ）	収穫前の農作物
天気（てんき）	天候のよいこと、晴天
間（けん）	長さの単位、1間≒1.8メートル
蛇籠（じゃかご）	砕石を詰めた竹製または金属製の籠
坎樋（いりひ）	水の引入・排水のための水門が設けられた樋
井堰（いせき）	水を他に引くために土や木などで川水をせき止めた場所
洗堰（あらいぜき）	水流を横切って川幅一杯に石を詰めて造る堰 →川の流れ、水位・水量を調整する目的または灌漑用水の取水口に構築される
先規（せんき）	前からのしきたり、先例
入用（にゅうよう）	費用
自普請（じふしん）	村自らの費用で施工する工事
御普請（ごふしん）	領主が費用を出して施工する工事

4 昔の地図（明治・大正・昭和・平成）や今（令和）の地図を見たいときは？

- 文書館4階の地図閲覧室で調べることができます
- ・文書館地図センターには、国土地理院作成地図や県作成地図、県内市町村作成地図、航空写真など、約9万点の資料があります
- 歴史地理の研究や不動産業での土地調査など、様々な側面で活用できます



↑「埼玉全県航空写真」(H7年撮影)
「第一軍管地方2万分1迅速測図原図
(フランス式彩色図)」 →

○参考文献

- 埼玉県編『武蔵国郡村誌 第10巻』(埼玉県立図書館、1954年)
- 蘆田伊人編『大日本地誌大系(11)新編武蔵風土記稿 第11巻』(雄山閣、1963年)
- 埼玉県立文書館『野中家・新井家文書目録』(埼玉県立文書館、1972年)
- 日本大辞典刊行会編『日本国語大事典』(小学館、1972年)
- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編『角川日本地名大辞典11 埼玉県』
(角川書店、1980年)
- 埼玉県編『新編埼玉県史 通史編3 近世1』(埼玉県、1988年)
- 大澤章一『六堰用水の研究』(平成元年度埼玉県教育委員会長期研修教員報告、1990年)
- 有限会社平凡社地方資料センター編『日本歴史地名大系第11巻 埼玉県の地名』
(平凡社、1993年)
- 菊池俊夫・岩田修二編著『地図を学ぶ—地図の読み方・作り方・考え方—』
(二宮書店、2005年)
- 杉本史子ほか編『絵図学入門』(東京大学出版会、2011年)
- 埼玉県立文書館開館50周年&リニューアル記念企画展
「熊谷の記録と文化—WRCの地を訪れる—」展示解説図録
(埼玉県立文書館、2019年)
- 埼玉県立文書館『諸家文書目録X』(埼玉県立文書館、2020年)
- 埼玉県立文書館企画展「川の地図—荒川と治水—」展示解説図録
(埼玉県立文書館、2021年)